別府史談総目次

創刊号

創刊にあたって　豊田　文一
宇佐八幡宮と別府　中野　幡能
別府の行政事情（明治前期）　大野　保治
「諸用留」・「家宝珍事記」の時代　入江　秀利
古代の別府と朱　佐藤　暁
ヒゲコという名のカゴ　日名子洋一
地頭竈門氏について　土屋　公照
西国筋郡代昇格（文書解読）　入江　秀利
展墓吉弘神社祭神（漢詩）　竹長　善一
局観音の由来について　矢田　保
一通の手紙と武家不断枕　安部　和也

第二号

鶴見由布をめぐる神々　富来　隆
別府の行政事情（明治前期2）　大野　保治
内竈の古墳と観音堂（手嶋家墓所）　相良　範子
別府の鏝絵　藤田　洋三
銭瓶石騒動始末　入江　秀利
「八百屋お七」（盆踊り口説）　竹長　賢治
八幡朝見神社の神楽記録について　小玉　洋美
久留島藩鶴見村の産業　安部　作男
別府大庄屋初代堀助之丞吉正について　安部　和也
ふるき旅宿　漆原　辰雄
安浪と安波　安波　利一
大友本陣の歌　平　次郎
竈門荘の荘域　土屋　公照
鶴見嶽行常寺大勝院のこと　佐藤　暁

第三号

景行の豊後進攻と速津媛の奉迎　富来　隆
別府の行政事情（明治前期3）　大野　保治
土石流に埋もれた久光島　佐藤　暁
ポスポール（えせ役人事件）　入江　秀利
竈門又太郎貞継道善　土屋　公照
火男火売神社の事　安部　作男
豊後浄瑠璃への挑戦　河野　清文
虚子と祖母ノブ　安波　利一

鈴木主水白糸くどき（盆踊り口説）　田中　三生
安政の大地震（史料紹介）　安部　和也
明治初年の農民蜂起（文書解読）　入江　秀利

第四号

人（ひと）と言葉（ことば）　富来　隆
別府の行政事情（明治前期4）　大野　保治
別府で開かれた「九州小安居」　佐藤　嘉一
名勝解説「別府温泉地獄巡り」　星野　純郎
新開ハ御免蒙候（文書解読）　入江　秀利
別府を西南戦争の戦火より守った五人　安部　和也
別府の伝説　鎮西八郎為朝と別府　堀　藤吉郎
我が家の宝塔　安部　定雄
それらしきこと――夢二と別府　大塚　俊英
別府市末行遺蹟の銅鐸型土製品　佐藤　暁
日韓交流今昔　相良　範子
菊舎尼と別府　佐藤　勉
別府繁昌記（大阪毎日新聞）　三面先生（菊池　幽芳）

第五号

明治維新と大分県　佐藤　節
言葉と地名　鶴見・石垣原をめぐって　富来　隆
別府の行政事情（明治前期5）　大野　保治
日露戦争当時の別府町の稲作指導　小玉　洋美
地獄の噴気を利用した食べ物　藤内　喜六
豊後明礬考――明礬會所の設立まで――　入江　秀利
小倉藩人畜改帳について　安部　和也
別府市街における盃状穴　佐藤　勉
石垣原合戦の史跡について　矢島　嗣久
「ふいが城」（発掘記録をもとにして）　土屋　公照
鉄輪方面修学旅行の記（明治杵築中学）　河野　照之
照湯に関する史料　佐藤　暁
別府繁昌記(二)（大阪毎日新聞）　菊池　幽芳
別府の伝説　悲しい女の性　堀　藤吉郎

第六号

別府のタタラ文化――言葉と地名(2)――　富来　隆
別府の行政事情（明治前期6）　大野　保治
大友氏時について　矢島　嗣久

元禄の笞器と古語への夢　日名子洋一
別府の歌物語り　後藤　武夫
「石垣原合戦日記」（古屋家文書）　安部　和也
豊後明礬考㈡　天保の改革と明礬會所　入江　秀利
梨子地桐鳳凰中高蒔絵弓を得て　相良　範子
住吉様のお祭り（祭研究同人）　入江　秀利
別府繁昌記㈢（大阪毎日新聞）　菊池　幽芳
別府の伝説　聖の念力　堀　藤吉郎
豊後国速見郡村誌（抄）　事務局

第七号

トビと、太陽と、エビス様（福神信仰）　富来　隆
寛永キリシタン塔（南石垣）　藤内　喜六
別府の行政事情（明治後期一）　大野　保治
大谷光瑞鏡如上人について　矢島　嗣久
横灘文人庄屋列傳（幕末の庄屋たち）　入江　秀利
別府市美術館と名作の周辺㈠　江藤　明
別府における石器人　安部　和也
松井文書「立石一件」について　佐藤　暁
天明大飢饉の口伝について　相良　範子
井上馨侯の別府潜伏とその前後　長谷部吉貞
多賀神社のこと　土屋　公照
朝見八幡様のお祭り（祭研究同人）　入江　秀利
盆踊口説「与十秀浦心中」　佐藤　勉
別府の伝説　霊泉・霊湯　堀　藤吉郎
別府温泉繁昌記㈣（大阪毎日新聞）　菊池　幽芳
豊国紀行・西遊雑記　（抜粋紹介）

第八号

別府町の米騒動　三重野勝人
中濱地蔵尊の造立　安部　和也
鍛冶文化の変容―言葉と生活―　富来　隆
別府の行政事情（明治後期二）　大野　保治
キリシタン塔（北石垣・吉弘）　藤内　喜六
高岸源太郎と料亭「なるみ」について　矢島　嗣久
鶴見村大庄屋直江氏について　後藤　武夫
エンヤンドッセーの掛け声が消えた　入江　秀利
八幡竈門神社のまつり　土屋　公照
豊後明礬開発の史料　佐藤　暁
「別府が、好きに」（市内歴史探訪記）　國廣　清光

別府温泉繁昌記㈤（大阪毎日新聞）　菊池　幽芳
別府の伝説　怪力・鬼　堀　藤吉郎
史料　菡海漁談　脇　蘭室
蝶斎起友著『温泉めぐ里』（史科紹介）　佐藤　勉

第九号

佐藤慶太郎と別府　江藤　明
よみがえれ別府市公会堂　星野　純郎
鼠ノ石窟と土蜘蛛（付、速津媛のこと）　大塚　俊英
別府の行政事情（明治後期三）　富来　隆
間宮英宗の来別に関して　大野　保治
第一回国勢調査と別府　佐藤　嘉一
大友持直について　小玉　洋美
赤米とさつまいも　矢島　嗣久
別府の秋葉神社考　入江　秀利
立石天満天神宮の「すぼふり」　安部　和也
別府歴史散歩㈠　北石垣の西域コース　伊東　英俊
別府の伝説　動物アラカルト　日名子洋一
別府温泉繁昌記㈥（大阪毎日新聞）　堀　藤吉郎
菊池　幽芳
史料　石垣原の戦闘（一）　帝国在郷軍人会大分支部

第十号

ウイルスで追う民族の移動　大友　信也
盆の庭入りとバンバ踊り（天間地区）　松岡　実
「鬼ノ岩窟」と、鉄と、聖地　富来　隆
別府の行政事情（行政年表）　大野　保治
ローマ法王様訪問記　相良　範子
斎藤茂吉、中村憲吉の来別　佐藤　嘉一
別府を訪れた文化人たち　大塚　俊英
別府と毛利空桑　安部　和也
吉弘嘉兵衛統幸について　矢島　嗣久
別府茯屋ものがたり　入江　秀利
別府歴史散歩㈡　伝説と棚田の里・内成　探訪部
史科　石垣原の戦闘（二）　帝国在郷軍人会大分支部

第十一号

時宗寺院松寿庵について　小泊　立矢
別府太郎・次郎および鷹の「塚」　富来　隆
別府市立図書館所蔵・和本整理の記　佐藤　嘉一

赤野城と雄城氏　安部　和也
御許山に錦旗が立った（小浦村庄屋記録）　入江　秀利
亀川の信仰について　相良喜久子
別府の伝説　由布岳・鶴見岳　堀　藤吉郎
忘れられた遺跡の発掘（一）　研　修　部
別府の歴史散歩
　石垣原合戦の背景と原因　矢島　嗣久
　石垣原古戦場をたずねて　探　訪　部
豊後国志　附図（速見郡）
史料　鶴見照湯山瑠璃光堂温泉略縁起

第十二号

黒塚古墳と三角縁神獣鏡　賀川　光夫
別府と大友氏　三重野　誠
別府の町や村のこと（明治前期）　大野　保治
トビ（竜蛇）神と南方文化　富来　隆
速見の「土蜘蛛」と「田野」について　安部　和也
土屋文明の別府来訪に関して　佐藤　嘉一
大友左兵衛督義統について　矢島　嗣久
勘定奉行になった庄屋　入江　秀利
山家むかし語り（一）　大平　安行
随想　武将の生まれ変りは女　島　節子
忘れられた遺跡遺物の発掘（二）　研　修　部
火売町の民俗行事　高橋　憲二
伝説　僧侶の霊異　堀　藤吉郎
高崎山城と柞原宮（夏の歴史探訪会）
史料　立石村手控

第十三号

富来隆先生追悼文　秦　政博
大分県の歴史風土をみる
江戸時代の別府景観　村のなりたちと生活　後藤　重巳
神祇式内社　火男火売神社（一）　大野　保治
わが町別府再発見　個性のある町づくり　河村　建一
書簡が語る真相　松井佐渡守の立石合戦　入江　秀利
「武家不断枕」について　安部　和也
田原紹忍親賢について　大友吉統の重臣　矢島　嗣久
石垣護生院　行圓上人木像の由来　佐藤　正映
路傍の石仏・墓石　山家むかし語り（二）　大平　安行
怪談　佐藤正映・他

別府歴史散歩　羽室御霊社・姫山メンヒル　研修部
忘れられた遺跡・遺物の発掘（三）　研修部
地獄　江戸時代の別府温泉の記録㈠　入江　秀利
史料「松井家譜」

第十四号

別府湾・海外交流の歴史　加藤　知弘
麻生太吉翁と川田十氏　矢島　嗣久
宇佐八幡はなぜ天皇家の祖廟か　安部　和也
神祇式内社　火男火売神社（二）　大野　保治
日本人と「神様」信仰を考える
「式内火男火売神社」補稿（一）　大野　保治
神仏分離　八幡竈門神社の場合　土屋　公照
別府（横灘）の江戸時代
複雑な支配の移り変わり　入江　秀利
地神盲僧琵琶
成就院玄清法流について　佐藤　正映
仲屋の「天神水」　朝見糸永家のこと　岡部　光瑞
耳川の戦　森　正人
温泉　江戸時代の別府温泉の記録（二）　入江　秀利
忘れられた遺跡・遺物の発掘（四）　研修部
懐かしい別府の情景　入江　秀利

編集後記

市内外の落葉樹の萎凋がはじまった。あちこちの学校の校庭にある銀杏も黄色に染まり、紅葉前線も終焉を告げている。これから日一日と冬ざれの色を濃くする。あと一ヶ月で新年。

まず、総会記念講演での的ケ浜事件（末廣論稿）。人権教育・差別撤廃の今日、別府人が忘れてはならぬ生きた歴史の教訓である。モンゴルの温泉調査から帰ったばかりの京大由佐先生は超多忙。その中での玉稿だけに有難い。一遍聖人の大野論稿、さらに野田地区の祭組の土屋論稿、よく今日まで貴重な史料を保存してきたと感心させられる。「湯けむり俳句」（甲斐論稿）の次の一句は、一幅の絵を見るよう（風呂場のノゾキ見はダメデスヨ）。

夫（つま）に背を流してもらい　梅月夜　香代子

（H13・12・4編集子）